

子どもが誕生して最初に接するのは、親や家族です。子どもは、母子関係、父子関係を通して、パーソナリティ（人格）の基礎的な部分が形成されます。その様子を、さまざまな側面から、他の国とも比較しながら考えてみたいと思います。

まず、母親の役割と父親の役割の違いについて、心理学者の河合隼雄がどのようなことを言っているのか、読み取ってください。ここで母親、父親というのは、実際の父母でなくてもそれに代わる人でもよく、また父親と母親の役割が逆転したり、一人が二役演じることもあると思います。最近話題の韓国ドラマ「梨泰院クラス」(<https://coneru-web.com/itaewonclass-ost/>) では、父親をモデルにして成長していく青年たちが描かれています。

次に、アメリカの文化人類学者が、日米の母子関係、子育ての様子を参与観察した結果を書いた文章を読んでください。日米の子育ての違い、そこからどのような人間性が育っているのか読み取ってください。「そんなことすると鬼が来るよ。お巡りさんが来るよ」と日本人の母親が子どもに言う理由についても書かれています。

3番目に、文芸評論家の江藤淳の『成熟と喪失—母の崩壊』の最初の部分を読んでください。これは日本の1980年代の第三の新人の小説。を分析した文芸批評の金字塔のような作品です。日本の母子関係は、アメリカのそれと比べ、どのような特質があると指摘しているのでしょうか。そこからどのような日本人の特性は育っていると思いますか。これは少し古いものですが、今の日本の親子関係はどのようになっていると思いますか。今の小説や映画やドラマのことを思い描き、考えて下さい。

4番目は、写真家の藤原新也が今の日本の母—娘関係の特質に関して述べたものです。それも参考にしてください。これは皆さんの世代の親子関係の考察です。

私も昔、母子関係に関して短い文章を書いたことがあります。

これらを読んで、親子関係のあり方に関して、あなたの考えを書いてください。

上記の質問への解答は、「クラスプロファイル」の「課題・提出・コメント」を使って、200字～1000字程度で、お送りください。講義資料を読んで理解したということも示し、自分の意見も表明してください。